

「急にもよぶ」「と危ない



男性だけがトイレで失神するわけではない。女性も失神する。そんな公平性など、要らぬというのに。68歳のK子さん。寝ていてお腹が痛くなり、トイレにかけこんだ。ウーンといきんで排便した。そのあと、失神した。幸い、頭は打たなかった。が、その後のことは医者への情けだ。書かない。ま、大変だった。排便失神である。

この病気は、男性でも起きるが、高齢の女性に多い。臥床中におなかが痛くなり、急に便意をもよおしたりすることがある。そんな差し迫った時の排便中や排便後に起きやすい。そのメカニズムは、

排尿失神とよく似ている。

排便失神

臥床中は、血管が拡張して血圧は下がっている。立ち上がると、下半身に血液が集まる。排便時にいきむことで、静脈血が心臓に戻りにくくなる。腸管にある自律神経の刺激が、反射的に心臓の動きを抑えたり血圧を下げたりする。脳への血流が減って、意識がなくなるというわけだ。

排尿失神と違って、アルコールの関与は乏しい。注意すべきは、便秘や宿便である。おなかに便が溜まった状態で、臥床中に便意をもよおし、発作が起きる。だから、排便は、寝る前に済ましておいたほうがよい。

と言ったら、「女のおなかは、思

寝る前にすっきり出して

い通りにならないワ」とK子さんに叱られた。確かに、便秘の悩みは女性に多い。が、年を取れば、男も女もない。運動量が減る。食事が減り、食物繊維も不足がちになる。腸の動きが鈍くなる。この頃は、ワッシーも思うようにならない。

排便時に、強いきむのもよくない。K子さんに、便を軟らかくする薬を勧めた。が、首を縦に振らない。使い方を間違えたのか、薬には苦い経験があるらしい。体操はしている。食べ物にも気を付けている。他に対策は？ と聞かれた。が、医者のはつが知りたい。(石黒修三 いしくろクリニック)

・脳神経外科専門医、金沢市在住